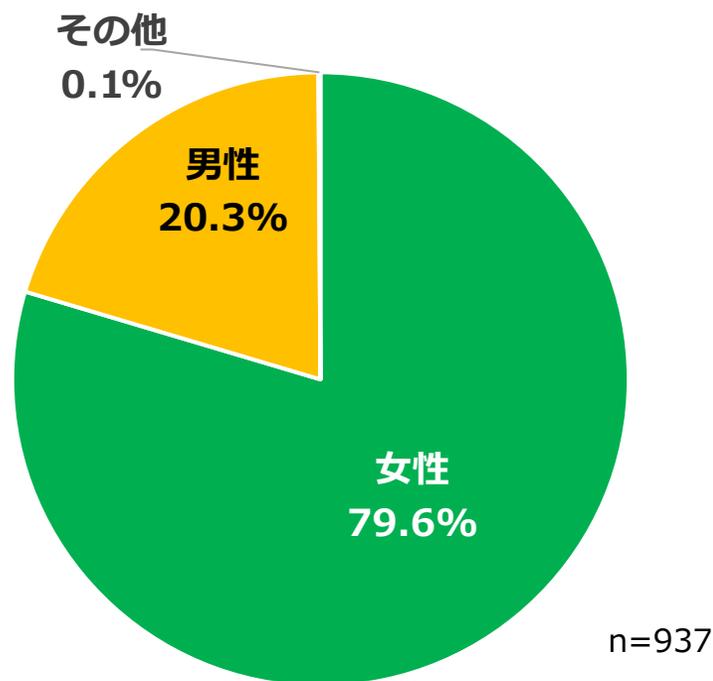




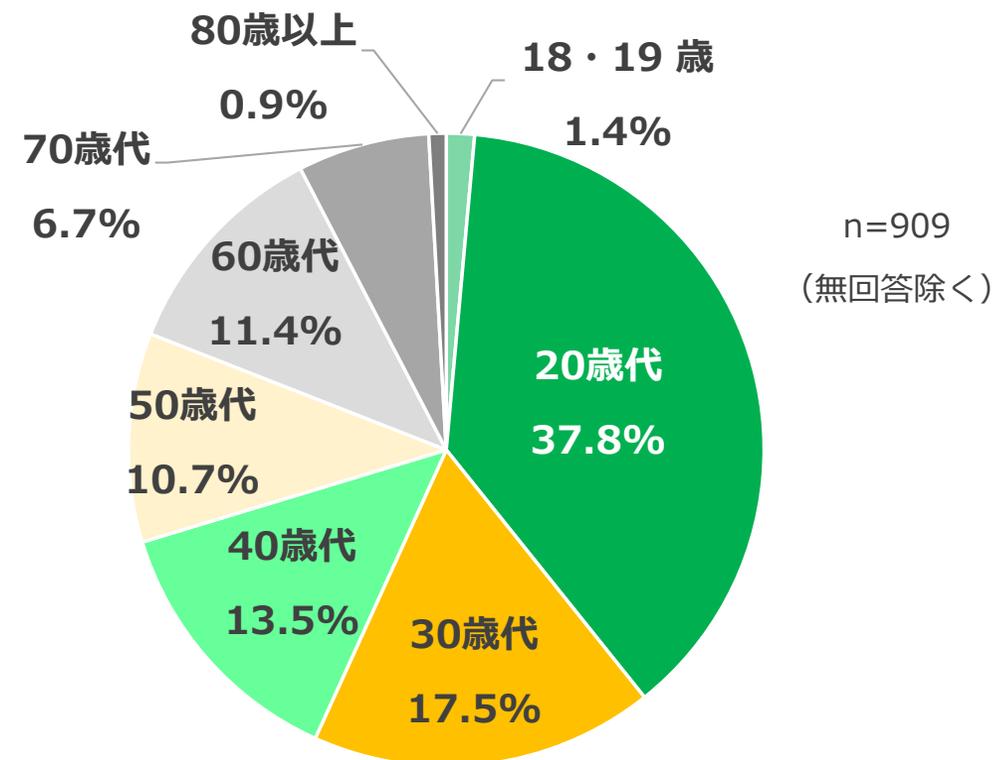
**日本財団ウクライナ避難民支援
アンケート結果
(第9回)**

男女比

※アンケート回答者の男女比。日本財団の支援対象者の男女比は男性：25%、女性75%

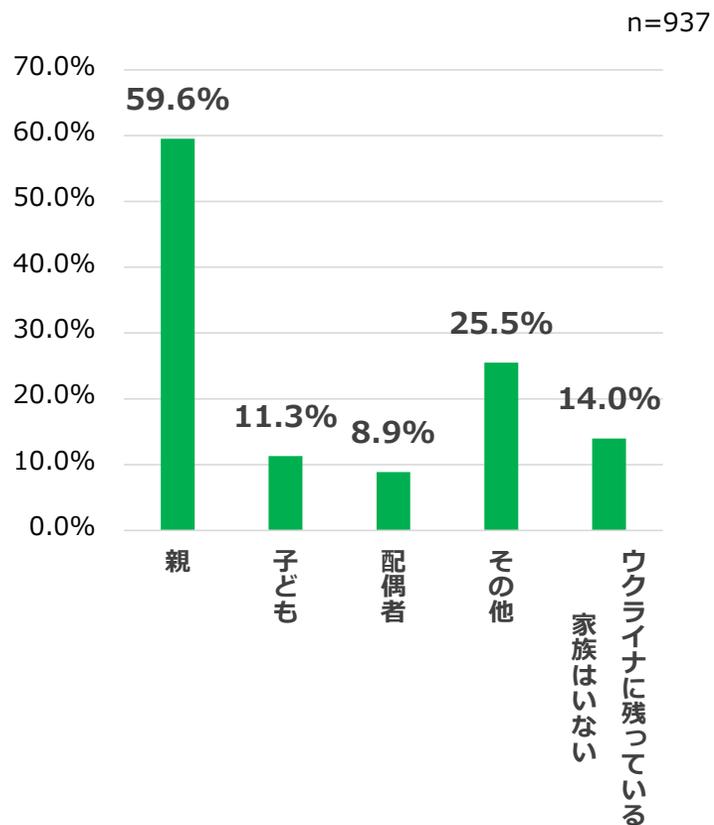


年代

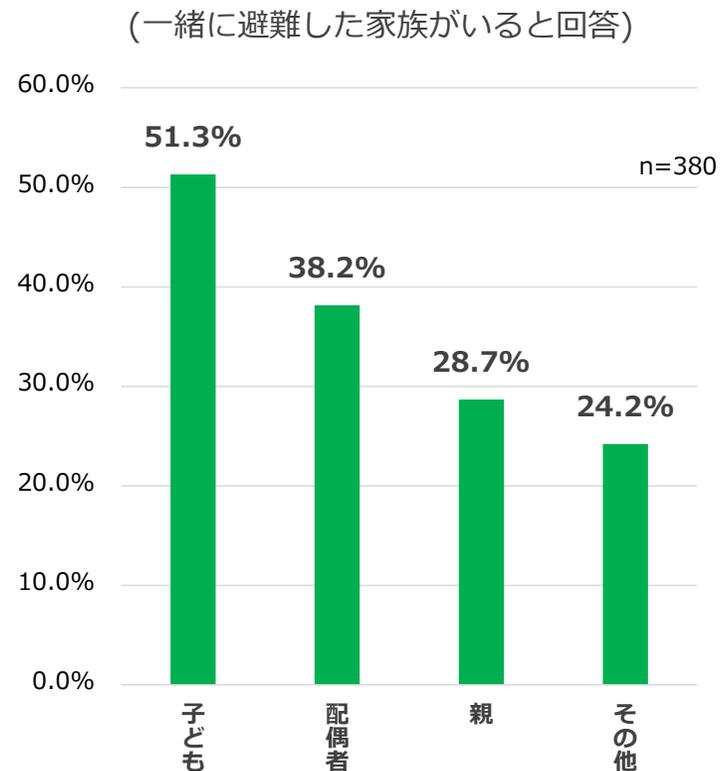


アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：937人 実施期間：2025年1月21日～2025年3月2日

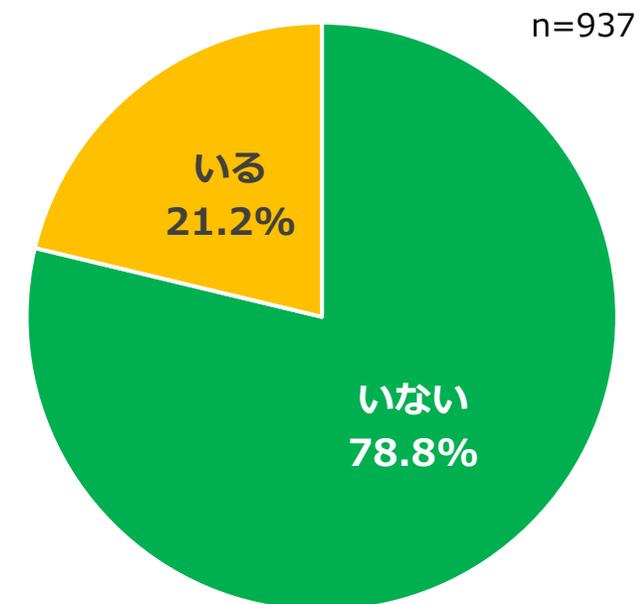
ウクライナに残っている家族



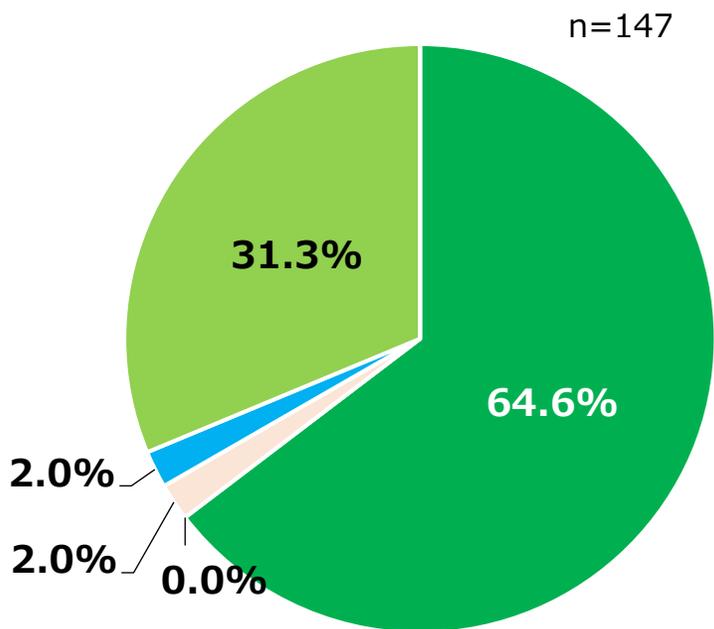
一緒に避難した家族



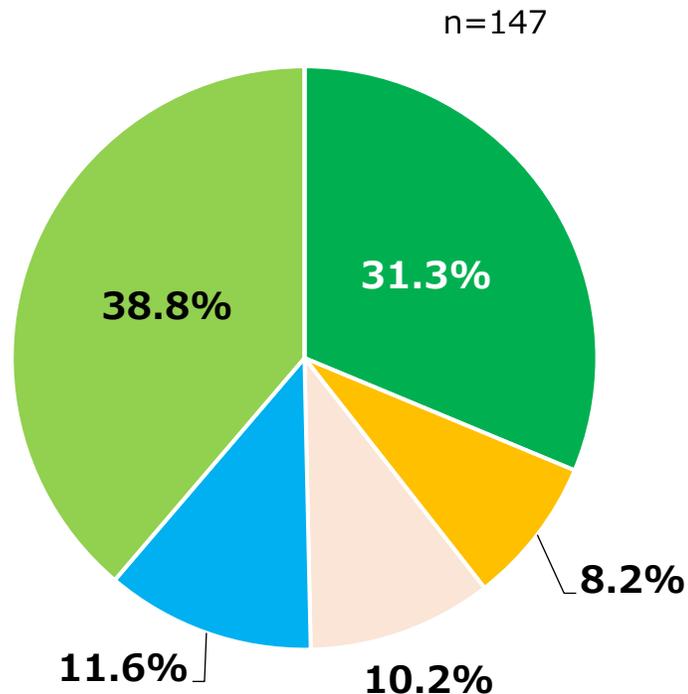
17歳以下の子どもと一緒に避難しているか



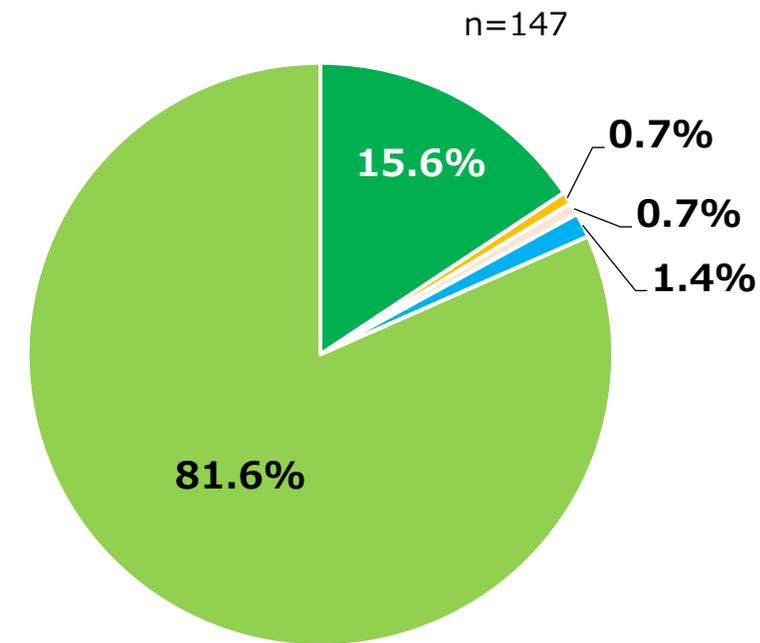
日本の学校



ウクライナの学校
(オンライン)



日本の外国人学校
(インターナショナルスクール等)



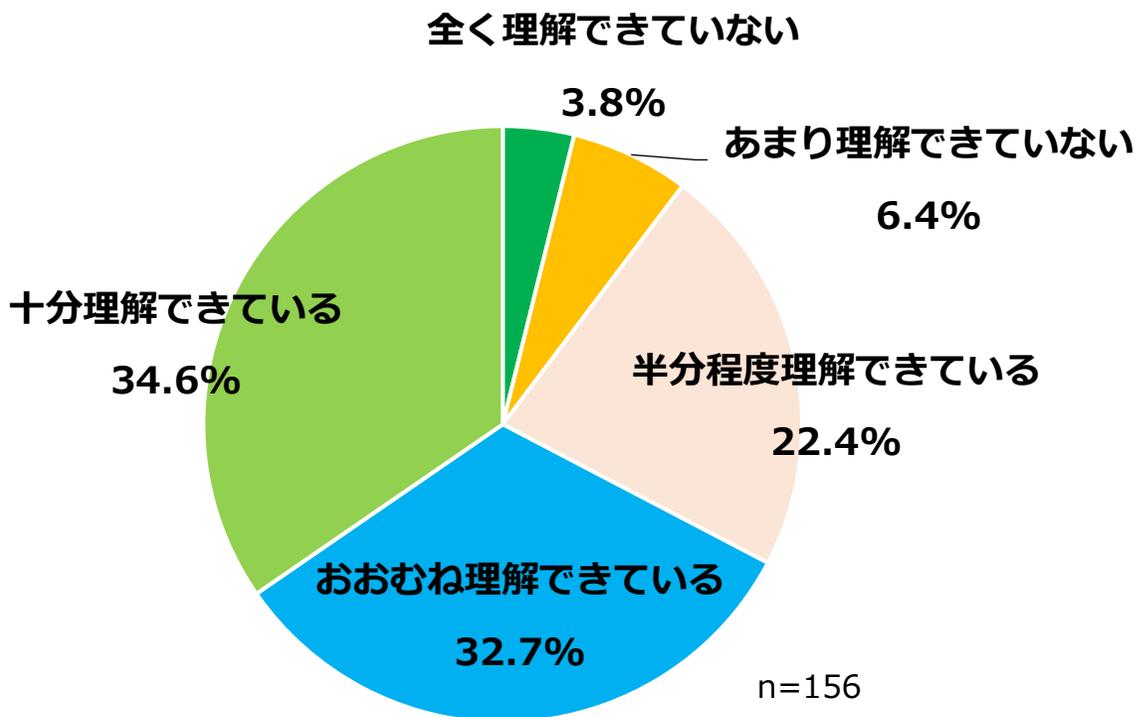
■ 毎日 ■ しばしば (週3~4回) ■ たまに (週1~2回) ■ 特定の教科だけ ■ 教育を受けていない ■ 無回答

※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

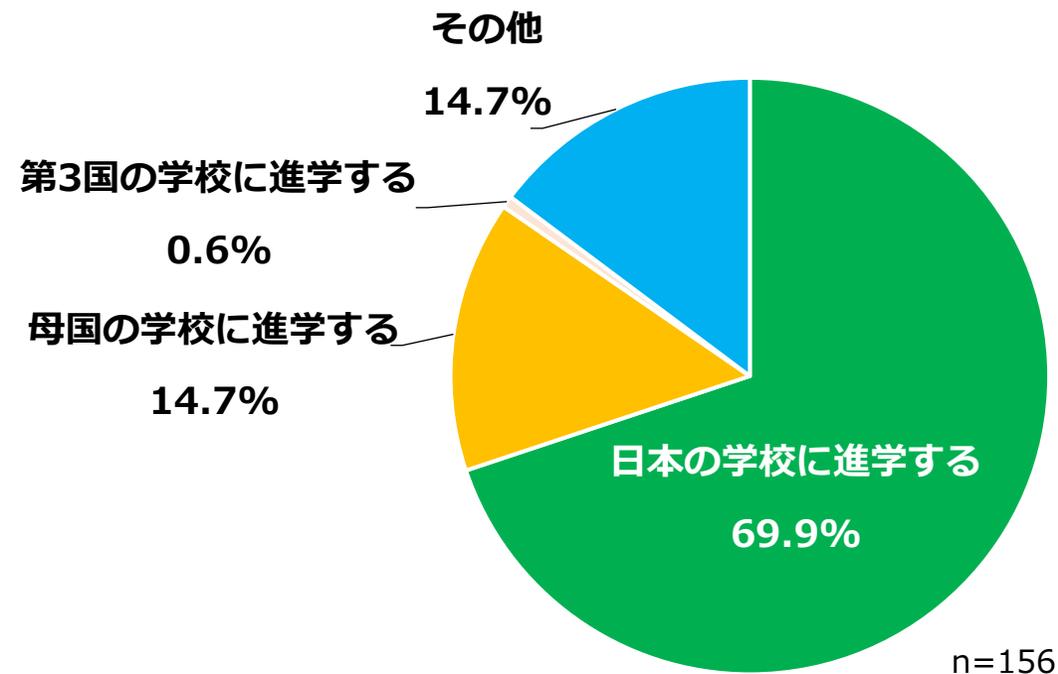
アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：937人 実施期間：2025年1月21日～2025年3月2日

※上記対象者のうち、子どもが就学年齢（6歳から17歳）の147人について回答

学校の授業の理解度



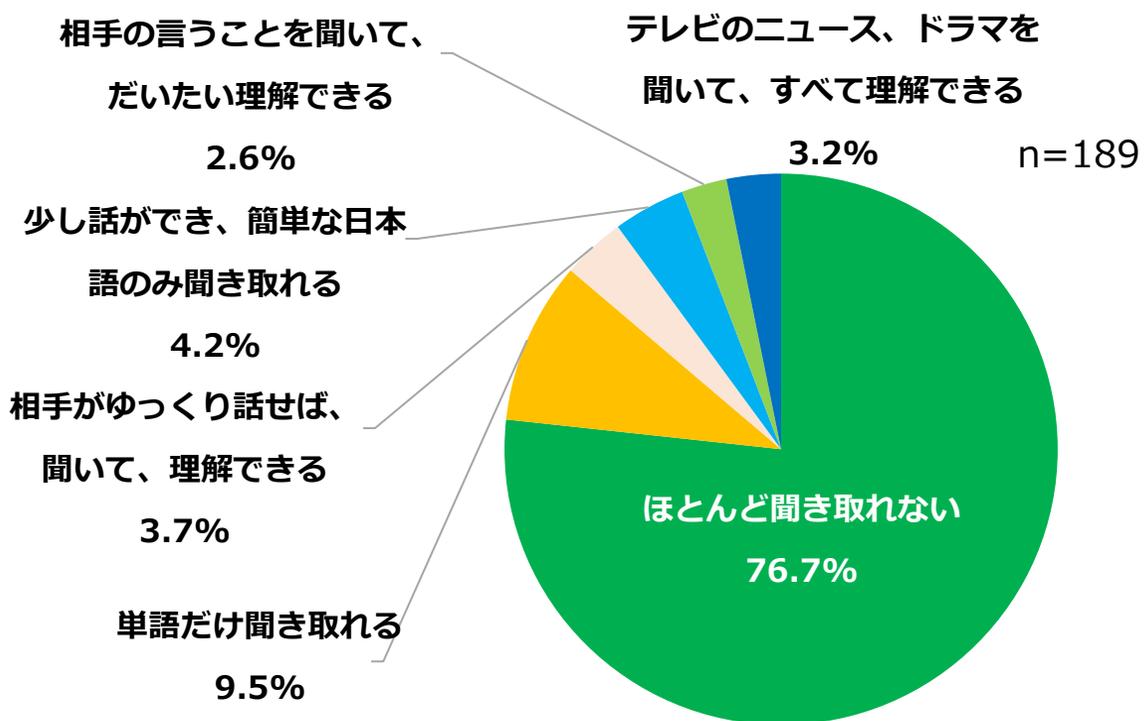
子どもの進学（想定）



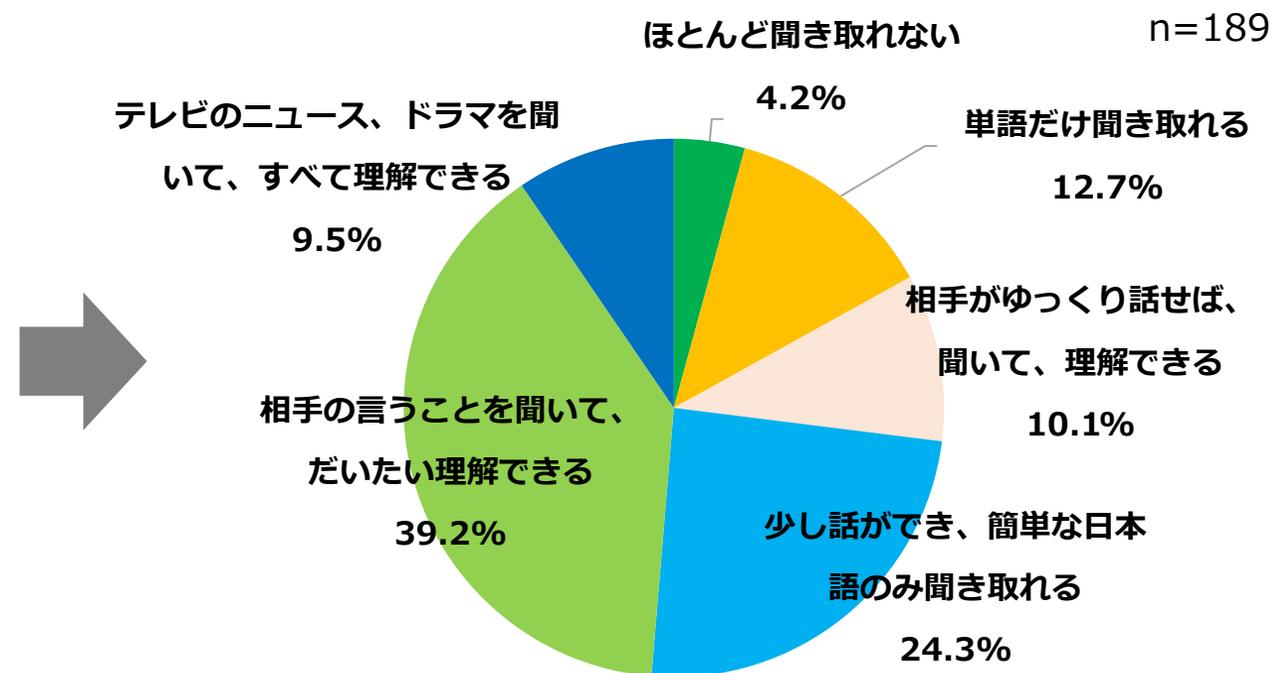
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：937人 実施期間：2025年1月21日～2025年3月2日
※上記対象者のうち、子どもが就学年齢（6歳から17歳）の156人について回答

日本に来た当初



現在

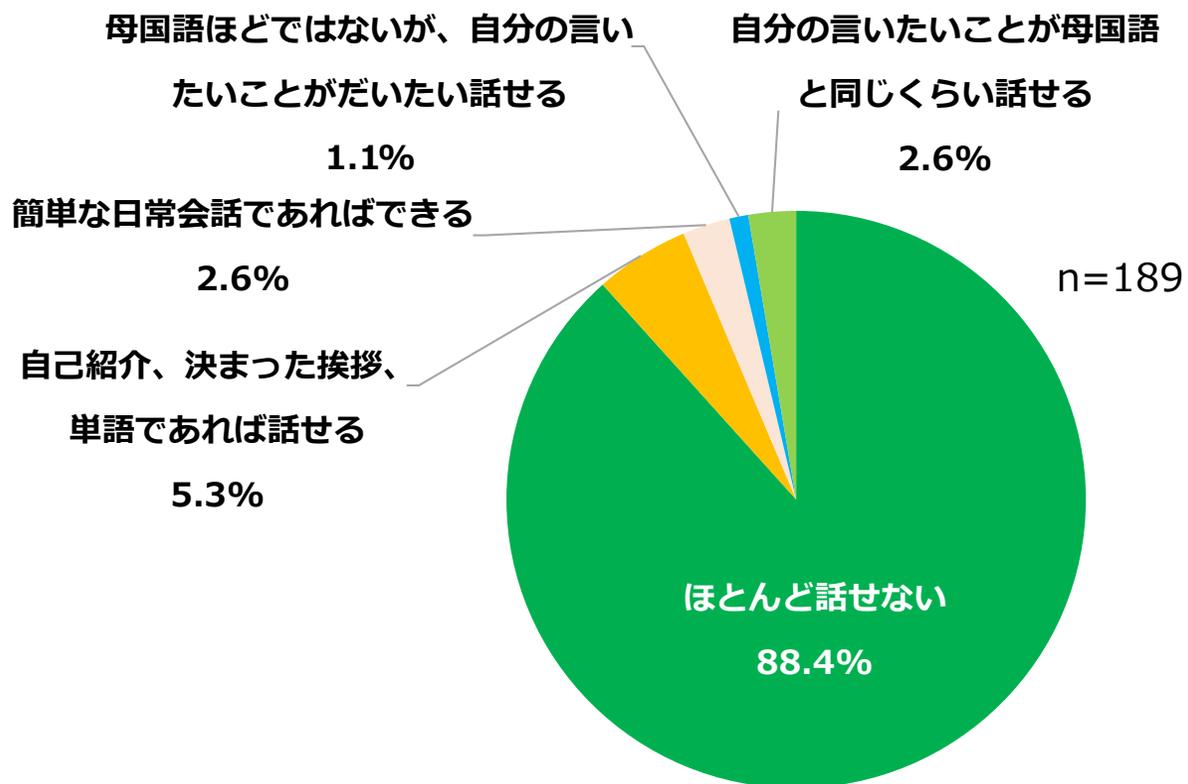


アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
 アンケート収集数：937人 実施期間：2025年1月21日～2025年3月2日

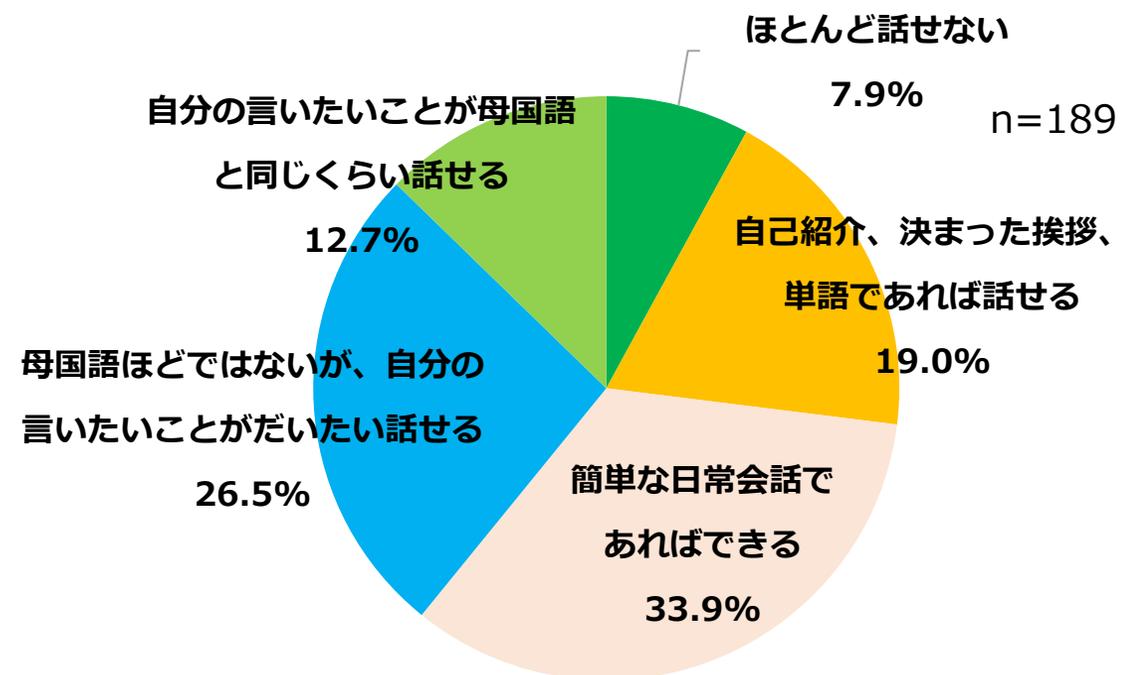
※上記対象者のうち、子ども189人について回答

※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

日本に来た当初



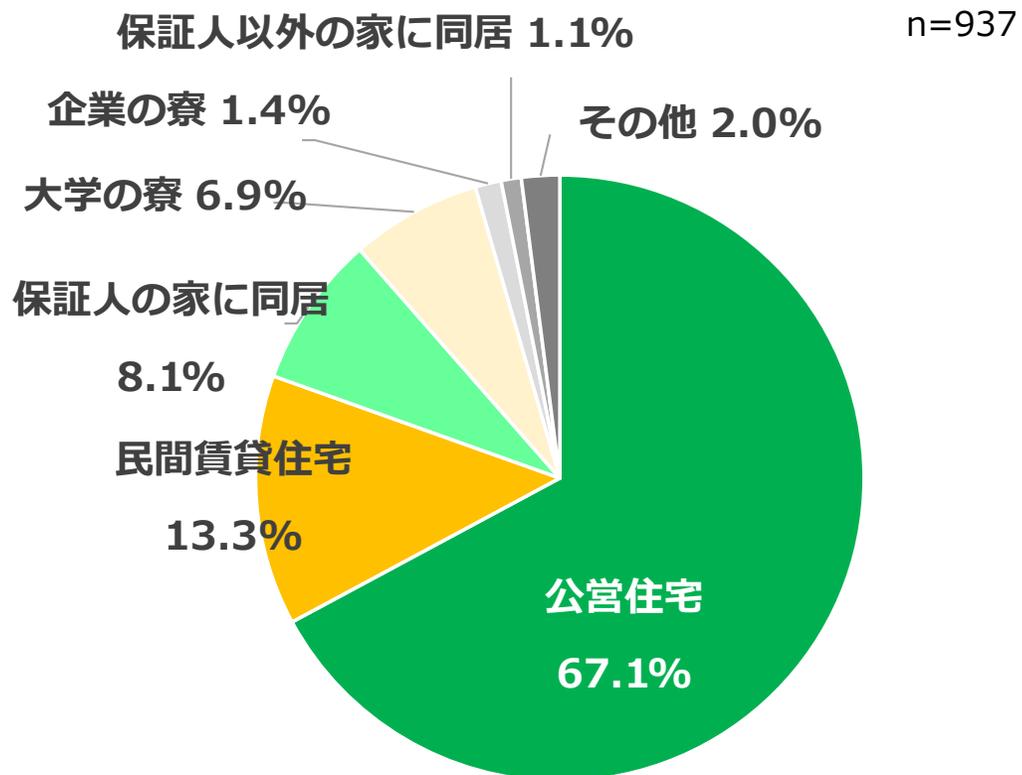
現在



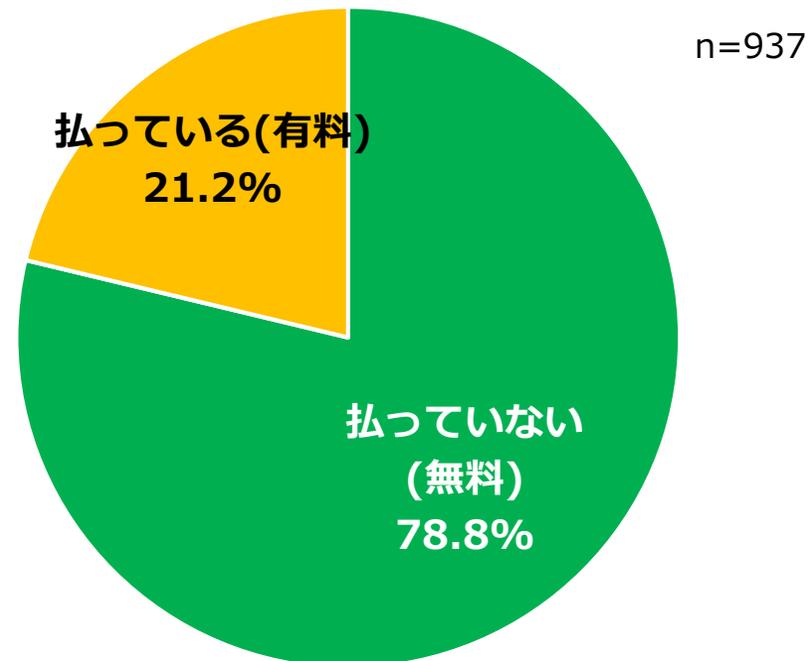
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
 アンケート収集数：937人 実施期間：2025年1月21日～2025年3月2日
 ※上記対象者のうち、子ども189人について回答

どのような家に住んでいるか



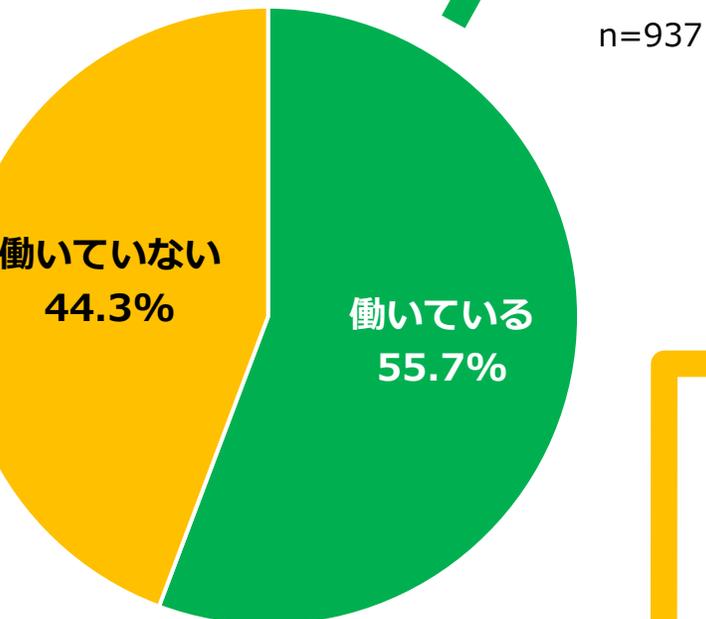
家賃を払っているか



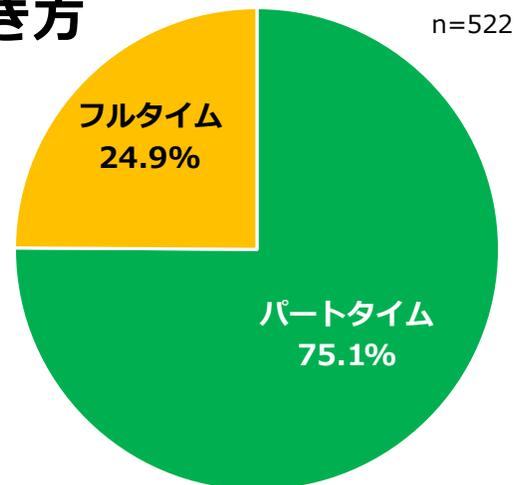
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：937人 実施期間：2025年1月21日～2025年3月2日

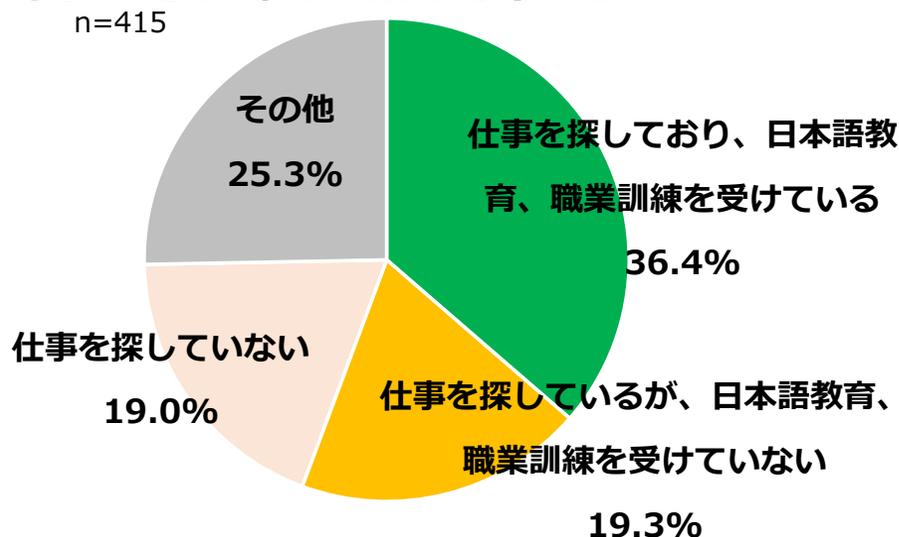
働いているか



働き方



働いていない場合の状況



職種

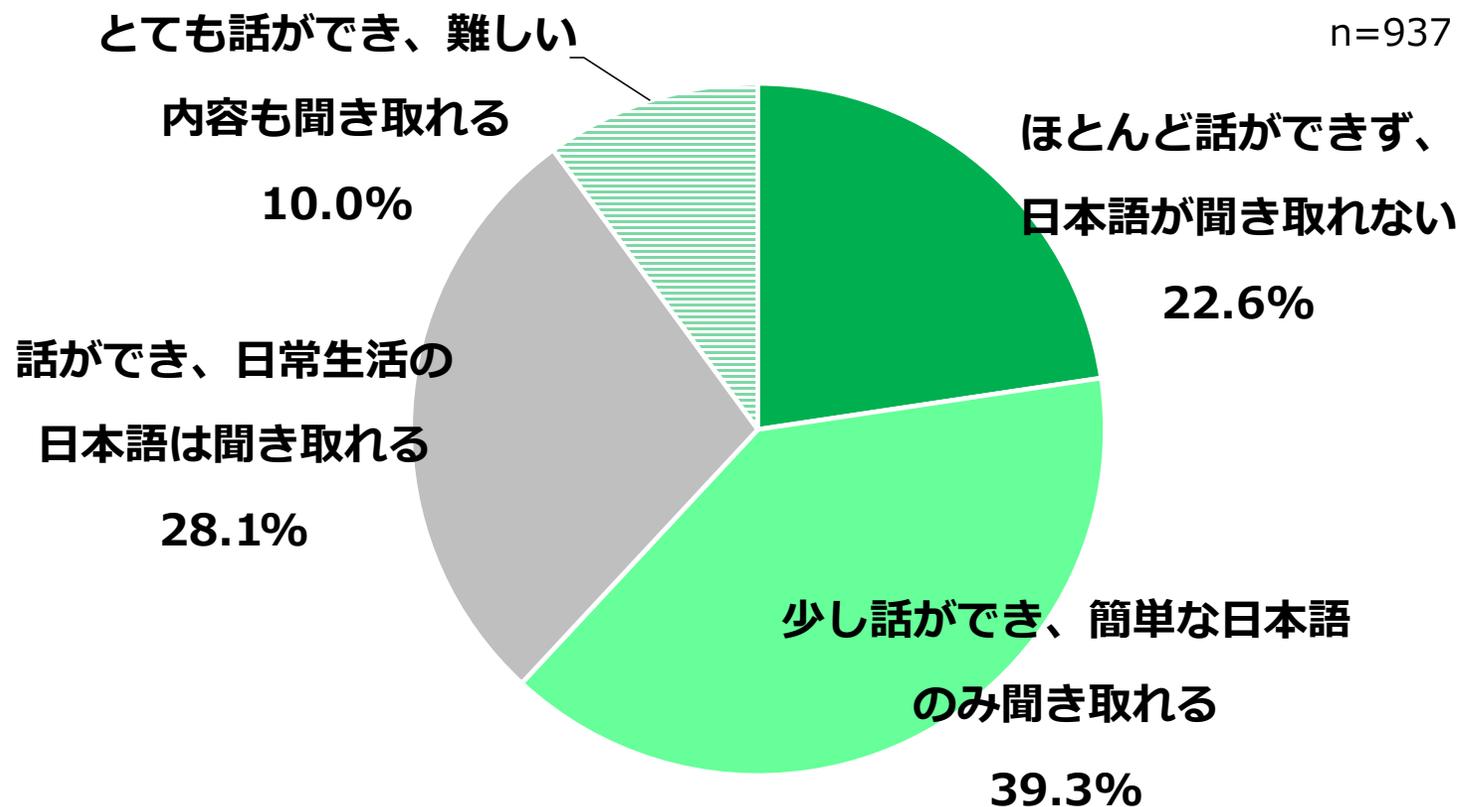
n= 522

販売・フード・アミューズメント	28.4%
保育・教育・通訳	11.1%
事務・アシスタント	9.0%
営業	8.8%
美容・ブライダル・ホテル・交通	5.2%
ITエンジニア	3.6%
技能工・設備・配送・農林水産	3.3%
医療・福祉	3.1%
クリエイター・クリエイティブ職	2.7%
建築・土木	1.9%
経理	1.1%
企画・管理・経営	0.8%
コンサルタント・金融・不動産専門職	0.4%
その他	20.7%

※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：937人 実施期間：2025年1月21日～2025年3月2日

日本語が話せるか

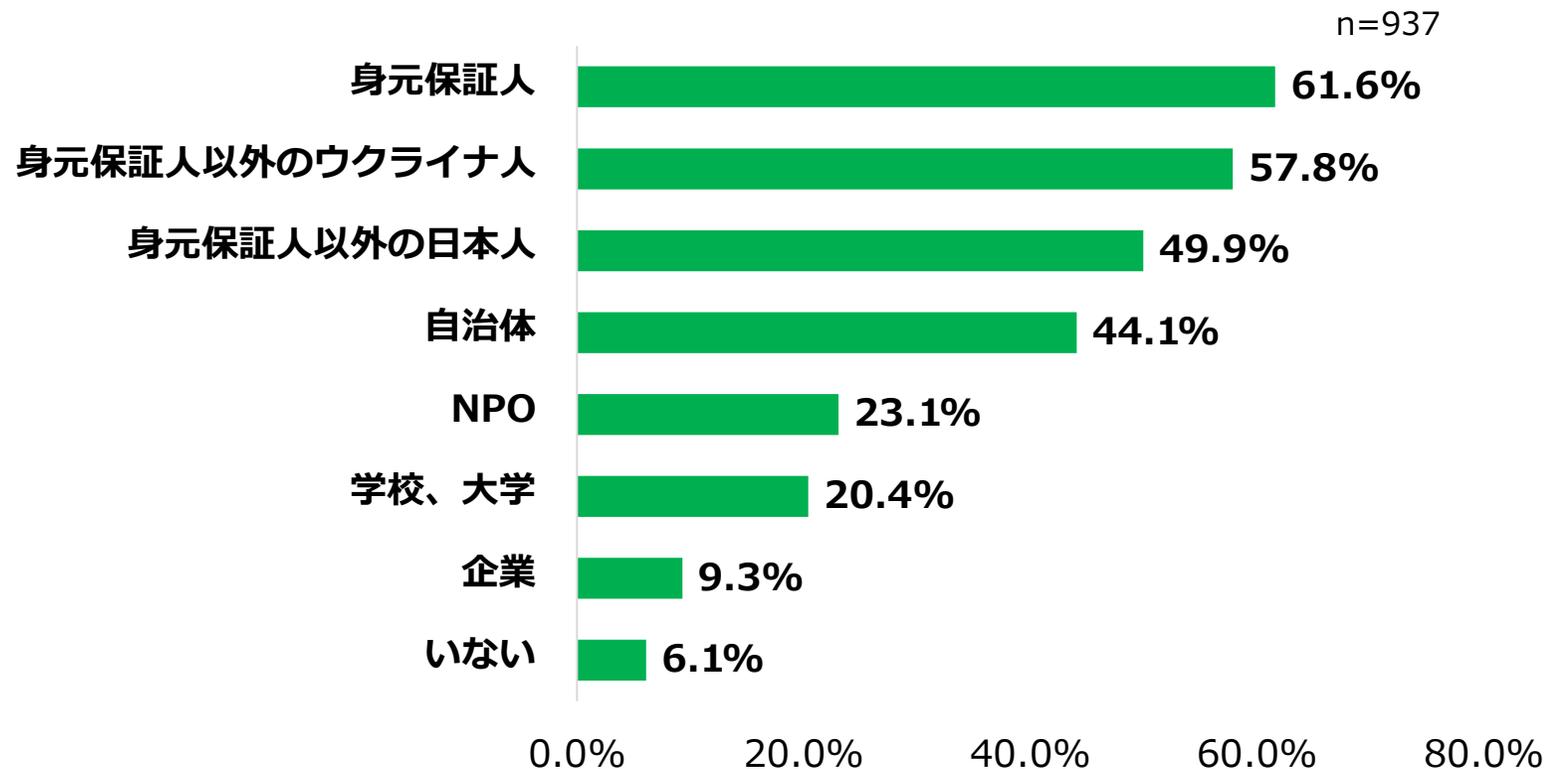
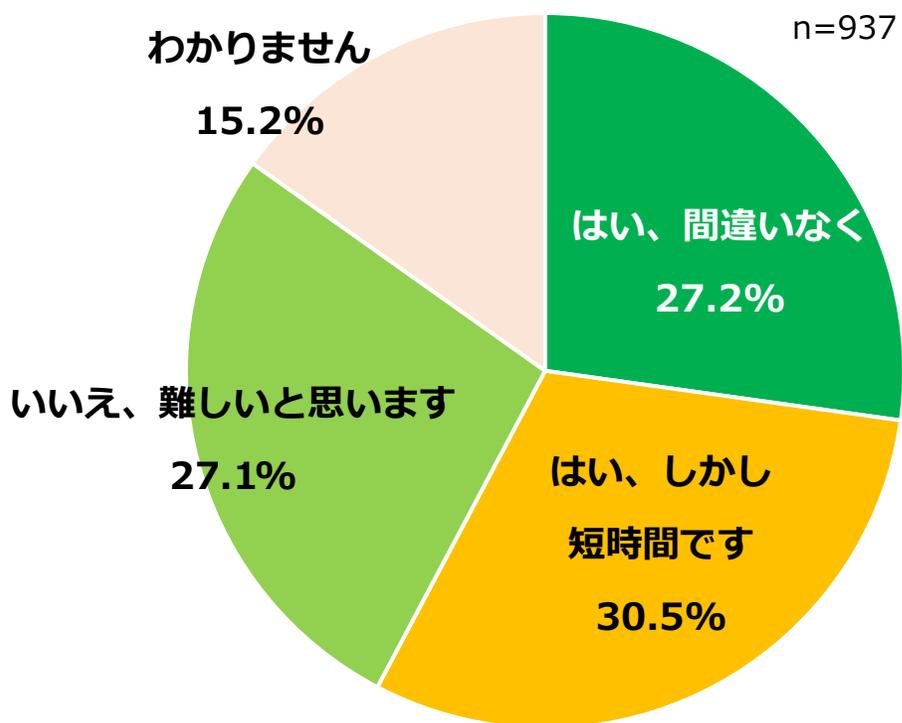


※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

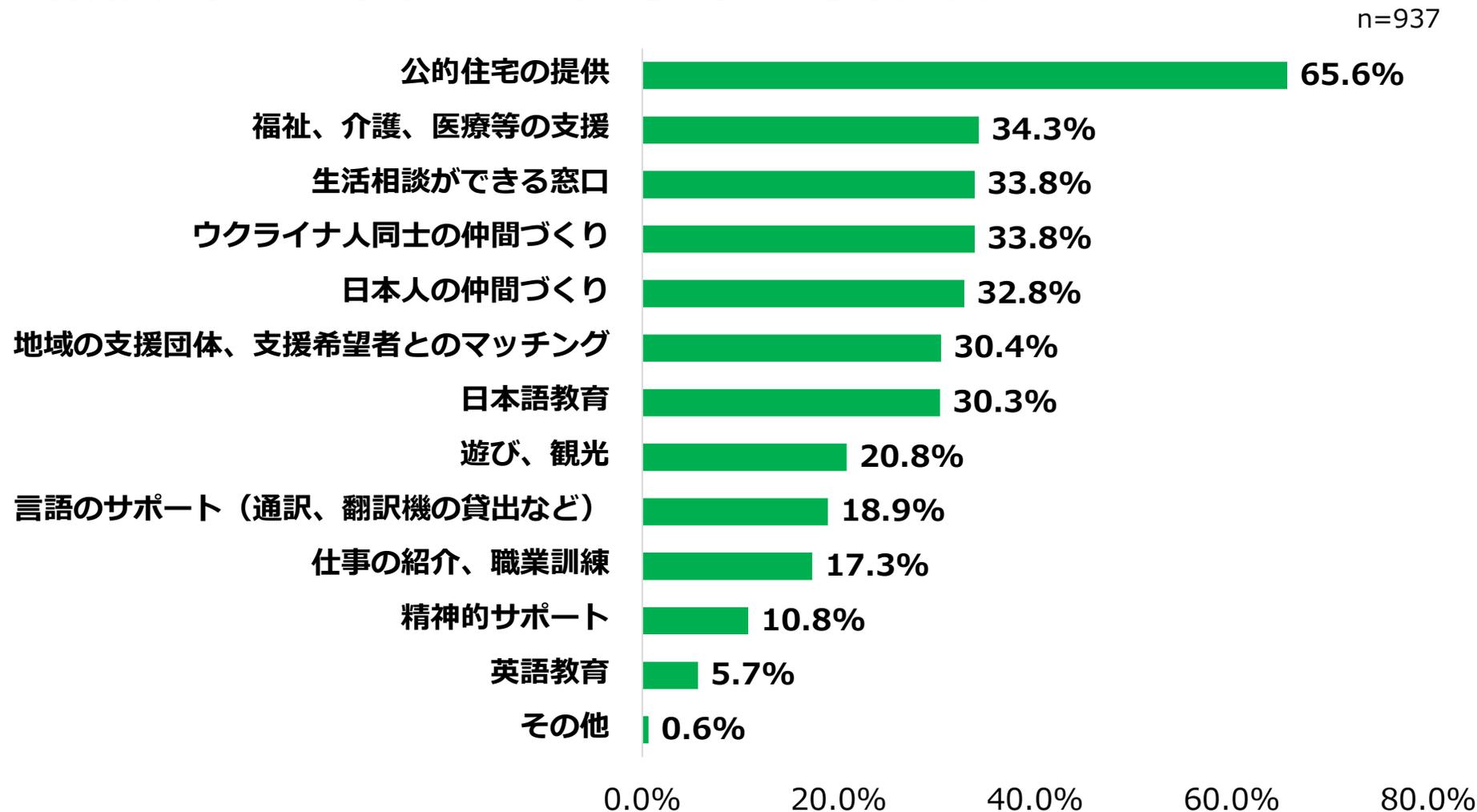
アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：937人 実施期間：2025年1月21日～2025年3月2日

身元保証人にサポートする余裕があるか

困ったときに相談できる存在（複数回答）

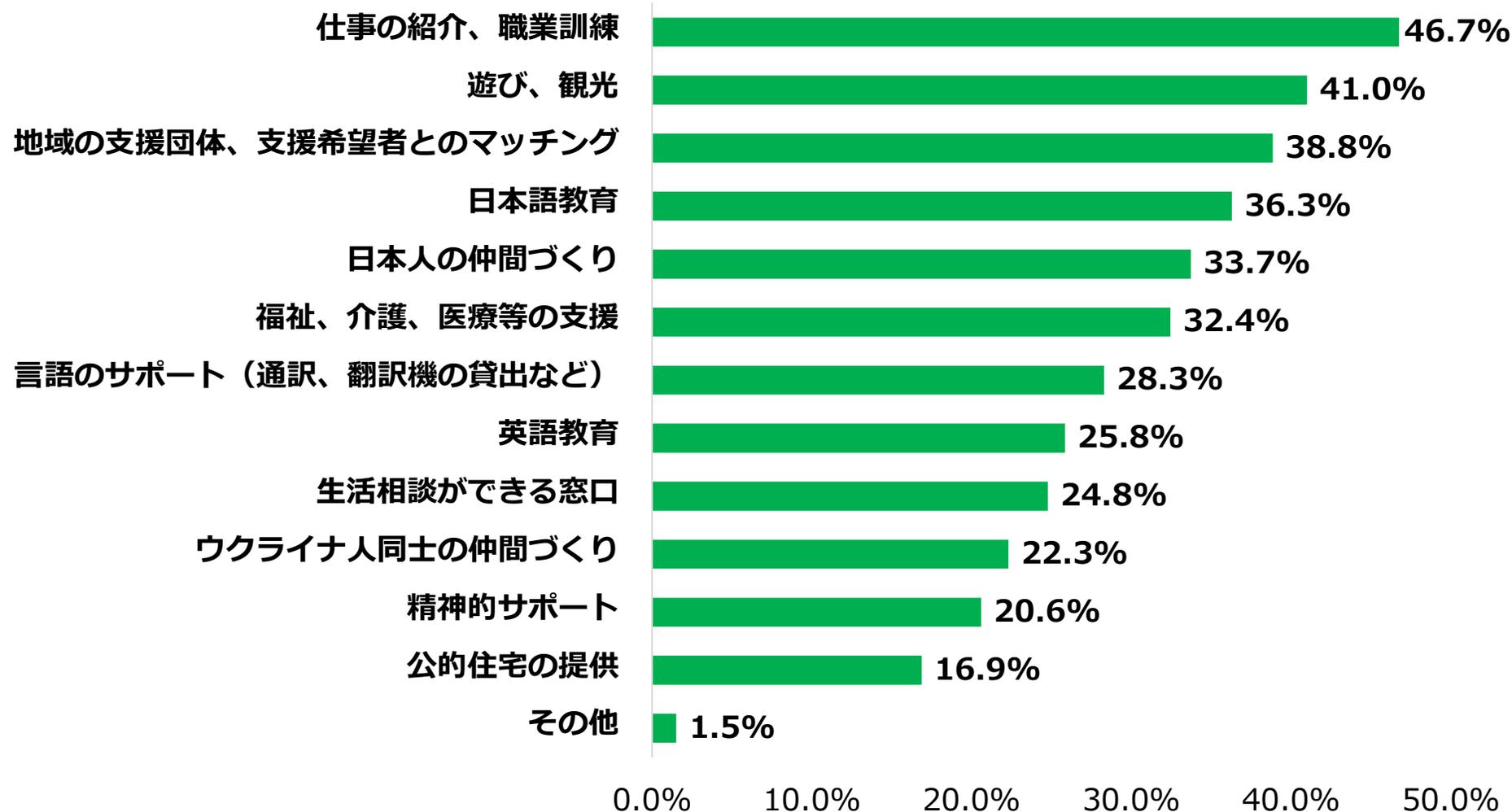


給付金、生活物資の提供以外で、受けている支援は何ですか。

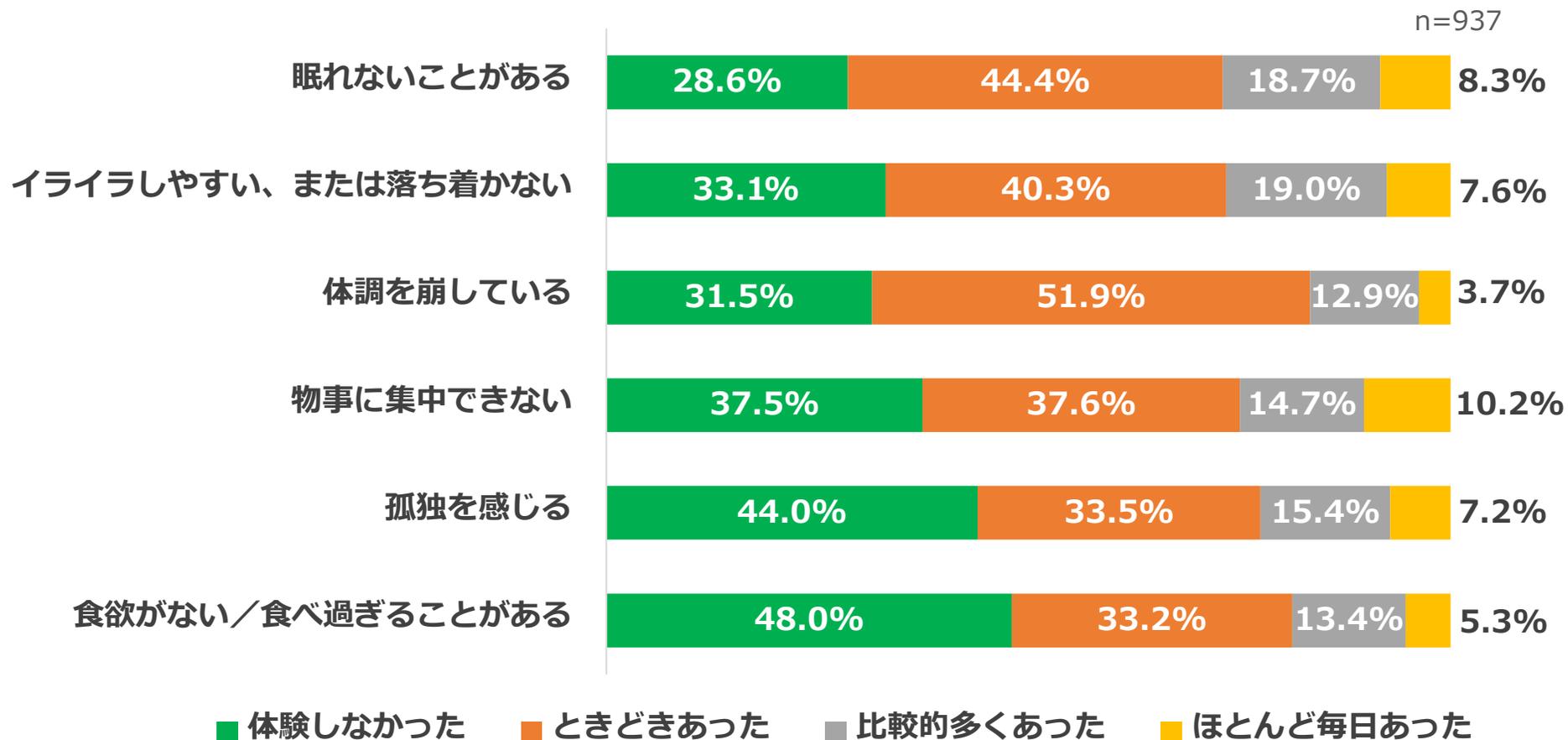


給付金、生活物資の提供以外で、必要な支援は何ですか。

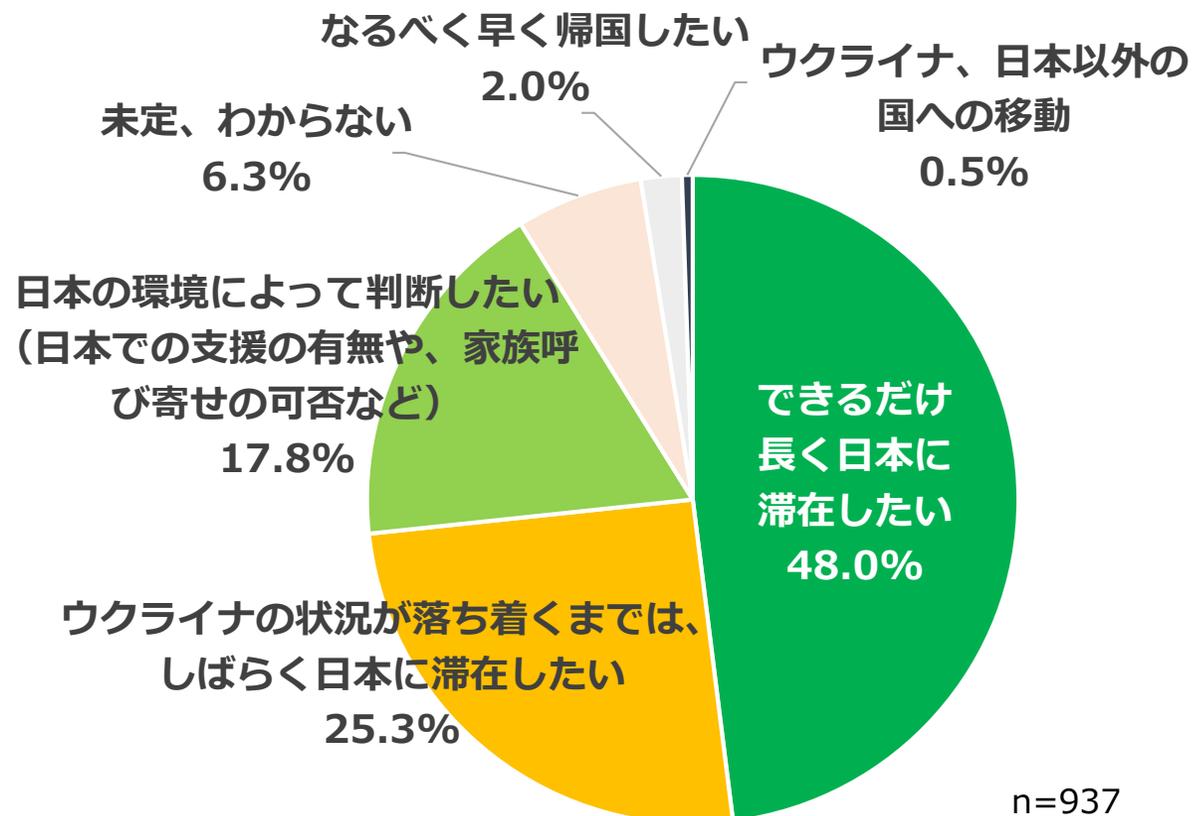
n=937



ここ2週間の状況であてはまるもの



帰国の意思、希望を教えてください。



※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：937人 実施期間：2025年1月21日～2025年3月2日

2年半で、私は日本の生活にほぼ適応し、日本社会での行動のルールがより明確になり、言葉の壁もそれほど怖くなくなり、日常生活についてはある程度理解できました。（女性／50代／兵庫県）

私は日本に住んだ2年間で、地元の生活にすっかり溶け込みました。財団と現地の団体のおかげで、ここでの生活に必要な多くのことを学び、日本語も学んだので、今では日常の問題を自分で解決することがずっと容易になりました。私は日本語の勉強を続け、日本で仕事を探すつもりです。（女性／20代／佐賀県）

日本の仕事のリズムは激しい場合もありますが、言語を知っていれば適応がずっと容易になります。現地のルールを受け入れれば、日本は快適な生活を送る絶好の機会を提供しています。（男性／30代／富山県）

私の娘は学校に通い、日本の子供たちと交流することを楽しんでいます。夫は農業分野で起業したいと考えており、起業のためのトレーニングや支援について保証人と相談しています。（女性／40代／大分県）

子どもたちは安全で、心理的に適応しており、言葉の壁もありません。今では生活も整ってきています。（女性／40代／大阪府）

子どもたちは安全に教育を受け、クラブに通い、他の子どもたちとコミュニケーションをとり、成長する機会を得ることができている。（女性／30代／神奈川県）

日本に住んで2年以上、私は自分の言語スキルが日に日に上達していることに気づきました。私はその文化に浸り、日本人を知り、この国の固定観念を変えるのが好きです。日本人がウクライナをよりよく理解し、時には彼らの固定概念を変えることに役立つことを嬉しく思います。（女性／20代／東京都）

少しずつ各国がウクライナ難民への支援をやめていますが、それは公平なことです。言語を学び、就職するには3年もあれば十分です。しかし、日本語の知識がほとんどなく、身体的に働くこともできない障害のある高齢者として、私は最近、次に何をすべきかについて多くの疑問と不確実性を感じています。公営住宅プログラムの延長を希望しています。（女性／60代／東京都）

安全と住居という基本的なニーズは満たされていますが、私の言語知識が中途半端なため、自己実現のニーズを満たすことは難しく、日本人と十分にコミュニケーションをとったり、日本語を勉強したり、ウクライナで取得した専門分野で働いたりすることは不可能です。私は本当に語学力を向上させて、ここで充実した生活を送りたいと思っています。（女性／20代／埼玉県）

日本の生活にはだいぶ慣れてきましたが、最近は病院に行くことや医師とのコミュニケーションが難しいという問題に直面しました。（女性／20代／埼玉県）

私は日本に住むのが好きです。ただ、日本語が話せないと仕事を見つけるのは非常に難しいです。（女性／60代／石川県）

私はレストランで働いています（皿洗い）が、その仕事は私にとって非常に困難です。（女性／70代／大分県）

日本での生活はますます困難になってきています、日本の給料は少ないです（パートタイムです）。もう50代なので、もうパートタイムの仕事を引き受けてくれる人はいません。年老いた母親と学生の息子がいます。私たちはアパートの家賃を払わなければなりませんので、日本で生きていけるかわかりません。（女性／50代／千葉県）

息子にとっては学校は大変です。彼には話せる相手がいない。日本人の学校ではけんかがあり、彼はそこに行くことを拒否した。だから彼は孤独を感じるのです。（女性／40代／大分県）

※ウクライナ語の回答には自動翻訳を使用